

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	自己評価時・年度事業計画作成時等、日々のケアが理念に沿って実践されているか話し合い、必要に応じ見直しを行っている	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員自らが大切にしたいこと等を出し合い自分たちで作った理念であり、実現できるようプラン等に反映させ日々実践している。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関等に提示しているほか、家族には毎年家族会総会において年度事業計画を説明し、計画にはケア理念を載せている。日常生活の中で制作した作品を町の文化祭に展示して沢山の方に見てもらっている。文化祭の作品展示に町内のほかのグループホームも参加するようになり、地域の人々にグループホームの日常を理解してもらおう機会となっている	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	畑おこしや苗植え等は自主的に協力してもらっている。生け花や折り紙を定期的に教えに来てくれている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、町内会行事に参加し、回覧板なども利用者と一緒に届けている。また清水町内のイベント等への積極的に参加している。	

自己評価 GHせせらぎハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設本体施設が中心となり地域高齢者福祉の核となるよう取り組んでいる。具体的にはSOSネットワークの立上げや町主催の各種地域委員会委員の受託など。また本体施設とは別にグループホーム単独では管理者が十勝グループホーム協議会の理事に就任し連携し地域貢献に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を全職員で行うことで職員それぞれの想いを共有し、またグループホームに対する社会ニーズを確認する機会となっている。外部評価は調査員からヒントやアドバイスを頂くことにより更に進化する機会となっている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーに保険者代表、地域包括支援センター主任ケアマネ、苦情第3者委員、家族会役員なども参加し細かな点まで業務報告を行っている。実際にはなかなか意見が出にくいため、委員に行事参加・ボランティア・他のGHとの運営推進会議委員の相互参加などを実施し工夫している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町担当者が事業所行事にボランティアとして頂くほか、管理者等が町より委託された各種委員を務めるなど相互協力を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	玄関に権利擁護事業や成年後見制度のパンフレット等を提示している。実際には、各家族の理解を得ており良好な関係を構築しており制度を活用するに至っていない。また今年度途中から身体拘束監視委員会を身体拘束監視権利擁護委員会とし、職員自身が意識を高め自ら学習していく体制を確保した。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	褥瘡防止委員会では、皮膚に関連する点から原因不明な傷等をチェックし、その結果をサービス向上委員会で虐待等の可能性についても討議する仕組みをとっている。身体拘束監視権利擁護委員会では拘束11カ条以外にも拘束に繋がる行動が無いかを定期的に確認するなど職員の意識向上のための取り組みを行っている。		

自己評価 GHせせらぎハウス

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には丁寧に判りやすく説明することを心がけているが、契約時は説明やサイン等で手続きが長くなってしまったため、契約後も気軽に尋ねていただけることも必ずお伝えしている。また契約時以外にも運営基準の変更に伴う重要事項説明書の変更や運営規程の変更時は家族説明会を実施している。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見を述べやすい声掛けや話しやすい状況を作り、日常会話や利用者同士の会話などからそのまま放置すると苦情に成り得る事項を苦情の種として協議する場を作っている。外出・外食等はもちろん行事の立案や行事の反省は必ず利用者意見や満足度を反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>基本的には、金銭管理は収支状況を毎月事務より送付し、利用者の状況は担当職員より毎月手紙を書いて報告し、施設の状況は管理者が毎月ニュースを発行している。健康状態は健康診断結果等を看護師より説明している。その他個々の状況にあわせ随時報告をしている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情に対応する仕組みを掲示し意見箱を設置している。また町の担当部署・道社協・国保連などの窓口を提示している。そのほかにアンケートを活用した意見収集も行っている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>いろいろな企画等は職員からの発案をもとに実施している。すべての職員からの提案が企画できるよう毎月の全体外食や全体外出など担当者を月単位で決める試みを今年度より実施している。また管理職と職員の個人面談も定期的を実施している。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>突然の本人希望の外出や不安定な精神状態に対応するための外出などに柔軟に対応している。利用者の状況に合わせて勤務時間の変更を職員側から提案することがある。また体制的には早出3パターン・日勤3パターン・遅出3パターンを就業規則細則に明記し、職員サイドで利用者の状況に合わせて組み合わせることができるようにしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>併設本体施設との職員異動は、それ事態が離職を減らす工夫でもある。利用者のダメージを防ぐため相互訪問などの関わりを継続し、ケース引継書やセンター方式の様式を用いサービスの質を確保するようにしている。</p>	

自己評価 GHせせらぎハウス

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	併設本体施設(特養)と合同での学習会や委員会活動を通じ内部研修機会を確保し、外部研修にも参加の機会を提供している。また資格取得には、勤務上の配慮を行っている。又今年度から教育委員会を設置し経験年齢別のスキルアップ講習会を実施している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の他GHとは交流行事を相互に企画し、相互訪問している。サービスの質向上のため運営推進会議の委員も相互派遣をしている。また検索等に備えSOSネットワークを合同で立上げた。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ケアに関わる面でのストレス等は申し送りや状況報告の際にすぐに相談できる体制と経験年齢別の学習会を実施している。また、職員が直接的なケア以外にストレスを感じやすい部門には、専門職によるバックアップ体制(献立・往診・検診・夜間の医療連携)や地域連携(消防・各種商店・行政)更に併設本体施設とのバックアップ体制など職員の不安解消に努めている。	○ 職員が不安と感じる夜間や医療連携など他のGHより恵まれているが、現況の介護保険制度における介護職員の置かれている状況では職員のストレスを解消することは難しい。今後も関係団体等に現状を訴え協力し職員の地位向上等に努めたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	内部外部研修の確保、介護サービスの進歩の最新情報等を提供し、職員が興味を持っているテーマの学習会を企画するなど向上心を持ち続けることが出来るよう努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用開始前に本人と面談している。またそれまで利用していたサービス事業者等とお会いしサービスの継続に勤めている。利用開始時は接する時間を多く持ち観察も多く行っている。不安解消や想いを把握できよう努めてきた。	○ 直近の新利用者に対しては職員一人ひとりが意識して関わりを多くし不安解消や想いをくみ取る努力をしていたが、職員個々に収集した情報を共有する方法に時間的ロスがあり課題が残った。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談・見学・申し込みの間に家族ニーズを明確にし、施設側の意向も理解していただく様努めている。申し込みから入居までの間は他事業所のケアマネや相談員とも連携し状況変化等の把握に努めている。	○ 管理者から日頃の家族との良好な関係構築の重要性をかたられているが、職員の中には家族に対しての苦手意識やどのように接していいかわからない、程よい距離とは、担当以外の家族に対して、などを課題としている職員もいることが自己評価でわかり、今後その対応事例等を示しながら課題解決に努めたい。

自己評価 GHせせらぎハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者やチームで相談しよりよい支援が行えるよう努め、時には併設の居宅介護支援事業所や医療機関などとも連携し、相談されたときが一番助けが必要との意識を持ち対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に遊びに来てもらい雰囲気を味わってもらい、何があったらよいか、馴染みの物など、本人や家族と相談しながら行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活場面の炊事、味付け、畑管理、手芸、会話など職員が教わる場面は演出しなくてもたくさんある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事やご本人の誕生日等にはご家族も含め企画している。日頃の様子を家族へ伝える工夫(手紙、ニュース、面会時対話)をし、例え生活を共にしていなくても、ご本人が楽しまれている様子を理解していただくようにしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族とのこれまでの歴史や関係を理解できるよう努めた上での協力要請や関係を尊重した係わりをプランや外出企画に活かしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、買い物、散歩にて馴染みの場所を訪れたり、知人に会ったりしている。パーマ屋・信仰など馴染みの関係が継続することを大切にしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルにならないようすぐに支援できるように努めている。しかしどうしても折り合いが付かない場合などは孤立しないよう他の利用者との関係が持てるようにしたり、職員が中に入り和らげるように努めている。		

自己評価 GHせせらぎハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	これまでに医療的ケアが増えたケースと経済的理由での契約終了者が居られたが併設本体施設の特養で継続的に関わることが出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタ、アセス等により希望などの把握に努めている。訴えることのできない方についても家族等から得た情報や会話・表情などをみて希望や意向の把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一部センター方式の様式を用いたアセスを実施し生活歴や馴染み暮らし方を把握しその人らしさを大切にしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	どのような場面であっても職員側からの一方的な生活提供ではなく、一人一人の過ごし方を大切にしている。また毎日の細かな記録やアセスメントなどを通じ把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の想い等を実現するためにいろいろな視点からの意見や多くの工夫が常に必要であり職員全体でのアセスやモニタを実施しプランの作成、変更を行っている。またプランを実行するための職員周知も同時にできている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	病状の変化や状況の変化等必要に応じ変更する意識を持っている		

自己評価 GHせせらぎハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの一日の様子を細かに記録することにより、利用者の状況に応じた内容も含め、情報を共有把握できるようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一事業所の多機能性だけでなく、必要に応じ併設している他サービスと協力して支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域有志による畑の手伝い、折り紙、生け花などを教えに来ていただいている。消防には救急法等の講師を依頼し、災害時等の防災計画を毎年協議作成している。教育機関とは継続的なかわりを維持するため今年度より地元高校生に月1回喫茶店を出してもらっている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	併設本体施設の特養が行っているサークル活動や文化活動には自由に参加できる体制となっているためデイサービス同様のサービスを確保し、また特養看護師が兼務として配置しているため訪問看護同様のサービスが確保できている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの主任ケアマネに運営推進会議のメンバーになってもらっている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が看護師と共に最低2週間に1度は来られ、健康管理等の支援を受けている。また休日・夜間は医師の携帯電話に直接電話できる体制および状況に応じ往診体制を整えている。日常的には併設本体施設の看護師が兼務職員として配置し、医師とのつなぎ役・日々の医療的ケア・相談に対応している。		

自己評価 GHせせらぎハウス

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



自己評価 GHせせらぎハウス

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	採用時に個人情報の取り扱いについて説明し全職員から同意書を取っている。また重要事項説明書に職員・施設の倫理要綱と利用者の権利を明記している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	毎日の生活の中で会話・表情・観察から想いを読み取れるように努め、個々に合わせた自己決定による生活支援を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活習慣を大切に希望や意向などを伺いながら必要に応じて説明等し決めていただいている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類はなるべく本人に選んでいただき、特に外出時などは状況に合わせた身だしなみに心がけた支援を行っている。美容室は馴染みの店や本人の希望に沿って外出している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食材買い物、準備、調理、片付けをその人の状況に合わせた役割を提供している。食事は職員も利用者と一緒に取り良い雰囲気になるようにしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人と共に買い物に行き、嗜好品おやつを購入している。おやつ等の摂取時間や量も個々にあわせて支援している。	

自己評価 GHせせらぎハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄状況の把握に努めると共に、個別に対応している。またその日の状態や水分量を把握し対応している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	半数以上の方が夕食後ほぼ毎日入浴している。あまり好まない方も声掛け等の工夫により強制することなく入浴を楽しんでいる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	事業所としては起床時間・消灯時間・入浴日入浴時間などを決めず、一人一人の生活習慣や状況に合わせている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑、生け花、編み物、調理、清掃などのほかにも、日常生活上の多くの場面で一人一人の能力やこれまでの経験を活かせるような支援をしている。気晴らしのための外出等を企画するほか臨機に対応している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の嗜好品などはそれぞれの状況に合わせた支払が出来るよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や一人一人の体調に応じて戸外に散歩、日光浴、畑、花壇、外出などに対応している。厳寒期には併設本体施設への訪問等により戸外に出る機会を作っている。また毎日の買い物は職員と利用者で実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外食や外出などは毎月必ず企画している。そのほかの外出は全体、小グループ、個別とを使い分けしている。個別外出では家族を巻き込むことも増えてきた。		

自己評価 GHせせらぎハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の本人の希望に沿って電話を利用できる環境を整えている。本人の能力に応じ発着信や手紙の援助を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	各個室は広くとっており、訪問者が他者を気にせず訪問できる。またリビングでも訪問者と本人の空間が取ることができるように配慮している。訪問頂いた時間を大切に出来るよう配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないという意識を全職員が持っている。身体拘束11か条のほかに制止となるような声掛け(危ないなど)やちょっとまってねなども使わないような取り組み・座らせ続けるようことのないような取り組みなど、行動制限や拘束につながる可能性のあるものもなくすよう心がけている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は全員での外出中以外、日中掛けた事は無い。居室は職員が鍵をかけることも無い。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	室内は台所が中心となった構造で利用者の所在や居室への出入りが常に確認できる環境となっている。また生活の中ではさりげない観察・声掛けなどで把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	しっかりアセス、モニタ等を実施し、利用者の個々の状況に合わせた個別事故対策を実施している。浴室・洗濯室などでは異食されると危険な洗剤やシャンプーなどはさりげなく目に付きにくいように工夫している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	併設本体施設と合同で事故防止委員会を設置し、各種事故防止マニュアルを作成し、更に利用者個々の事故防止マニュアルも随時見直しをかけている。		

自己評価 GHせせらぎハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員を対象に心肺蘇生法の講習およびAEDの講習を実施している。また緊急マニュアルも作成し夜間も含めた急変時の対応を記載している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防等と協議し、避難手順等を毎年確認して消防計画を作成している。併設本体施設との協力体制も年2回の避難訓練時に確認している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事故防止のための安易なセンサー利用や行動制限になるような事故対策は行っていない。職員の工夫等による抑圧感のない対処方法について家族に説明している。	○	新しい利用者のプラン等に起こりうる事故等のリスクの説明が足りないのではないかという声もあり、家族を含めた話し合う機会を検討する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックや様子観察から変化や異常の早期発見に努めている。精神的な気分の変化も日常の記録を細かな面まで記録することで気づくよう心がけている。記録することで情報を共有し、看護師に常に相談できる体制となっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	アセス、モニタ等で毎回投薬内容を確認し、理解できるよう努めている。投薬変更時等は看護師等の指示により様子観察を実施している。介護職員の要望により、看護師が主な疾病についての資料(投薬や副作用も含む)を作成し職員に配布し理解に努めた。	○	前年の自己評価後、主な疾病に対して服薬を含む理解ができるよう資料等の作成はされているが今年もこの項目に対しては知識不足を上げる職員は多い。継続的に学習できるような体制を検討したい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々の毎日の排便を確認し、個々に水分量、運動、食物繊維の摂取等、下剤を使わない自然排便を促す努力をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人の状況に応じ声掛け・一部介助・義歯洗浄など口腔衛生面でも支援をさせてもらっている。		

自己評価 GHせせらぎハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量チェック表を活用し水分量の把握に努めている。食事量については毎食チェックする体制になっている。実施献立について管理栄養士のアドバイスを受けている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	併設本体施設合同で感染防止委員会を設置し、マニュアルの作成、周知に努め、また新職員に対しての内部研修も実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染防止委員会のマニュアルのほかに現況での台所・調理・消毒等の細かな対応方法を明確にしている。食材については毎日買い物に行く事を日課として新鮮な食材使用に努め中国産は避けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関内については飾り付けや掲示物を親しみやすくする工夫がされている。玄関には地域の方が花を生けてくれる。玄関までのアプローチについてはベンチを設置し花壇の花などで出迎えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間食堂は間接照明とし季節や年中行事にあった飾り付けを行っている。また台所がオープンキッチンとなっていて調理の様子や料理の匂いが生活感を漂わせ、リビングの一面はガラス張りでそこから見える畑の様子や日高山脈の山並により季節感を理解できるような環境を提供している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペース的に十分な広さがある居間・食堂にはいくつもの場面を設定した居場所があり、個々の状況に合わせ利用者自身が選択しくつろいで過ごせる。	○	それぞれある程度決まった場所があるが、新しい入居者さんを迎えた時点で職員側がどう配慮するか期間を短く区切って検討を重ねていきたい。

自己評価 GHせせらぎハウス

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と相談し、なじみの家具や生活用品を整えた居室環境となっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いについては設備的にオゾンによる空気消臭システムやガラス面を光触媒加工を施工するなどにより臭い対策をしている。また冷暖房の調整だけでなく、自然の風や換気を状況に合わせて行っている。インフルエンザ対策として全居室加湿器を設置している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの機能や安全面に配慮し、必要なところにソファや手すり代わりに椅子を置くなど、機能維持のための工夫をしている。	○	機能低下や身体状況の変化を共有するも安全面の工夫が一步遅れてヒヤリハットが起こってから事故防止対策として環境を見直すことが多い。今後は居心地のよい環境を維持しつつ、状況変化に合わせて、タイムリーに安全面での工夫を行っていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの認知度や理解度の違いを理解し、その人に合わせた環境づくりに心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダから畑や温室への移動がしやすく、その様子をリビングから眺めることができる。また玄関周辺にもベンチを置き花壇などで花きを栽培し楽しめるよう工夫している。	○	畑には出やすい場所だが畑の中に車椅子通路を作りたい。又花壇の手入れという点では反省点が多いため来期までに検討する。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

自己評価 GHせせらぎハウス

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・常に利用者の現況を職員全員で把握し、個々に合わせたケアの提供ができるよう努めています。全職員で考えたケア理念「楽しく」「自分らしく」「ゆっくり」「笑顔」を大切に、一人ひとりの想いを実現できるような支援を日々実践しています。